



# Harmony

編集・発行 弥彦村教育委員会  
TEL (0256) 94-1021  
FAX (0256) 94-3232  
〒959-0392 西蒲原郡弥彦村大字矢作 402 番地

弥彦を愛し、夢や志をもってつながりを広げる強くたくましい子

## 「自立」について考える

～成人年齢を「18歳」に引き下げる改正民法成立に寄せて～

### ◆現在の中学2年生は18歳で「大人」に◆

改正民法は、2022年から施行される。2022年春からの、成人年齢18歳引き下げにより、「親の同意なしに各種契約ができる」「男女とも、結婚ができる年齢が18歳に統一」など、これまでと「大人」の定義が変わる。「成人式」も18歳で参加することになる。しかし、「20歳」で行っている成人式を急に「18歳」にすると混乱が生じかねない。また、18歳で、親の同意なしで、クレジットカード契約ができると、悪質商法被害への心配が残る。国では、2022年に向け、各種制度を整備し、準備するとしている。ただし、「飲酒」や「喫煙」などは、健全育成の点から、現状のままとされる。

### ◆「大人」とは・・・キーワードは「自立」◆

「大人」とは、「自立した人」「責任ある行動ができる」「働いて家族をつくる」「自分の感情を抑えられる」等のイメージがある。現小・中学生には、将来、18歳が「大人」と認められ、評価される年齢になると自覚し、自らを高める努力を続けて欲しい。

教育委員会では、小・中の先生方と協議し、子どもたちに付けたい力を次の四つに集約した(弥彦村教育委員会広報誌 Harmony 第1号で紹介済)。①「課題解決する」②「かかわる」③「粘り強さ」④「振り返る」である。これらを身に付けることが、「自立」につながると考えている。

### ◆「自立」には、幼児教育が大切◆

「あいさつやうそをつかない、我慢する、やり抜くなどの非認知的能力を幼児の時代に身に付けることが、将来の成功につながる」との主張を記した「学力の経済学」(慶応大学総合政策楽部の中室牧子准教授)が話題である。ノーベル賞受賞のシカゴ大学の経済学者ヘックマン氏の調査を根拠にしている。調査は1960年代に開始され、今も継続中という。調査は、「3・4歳対象に、知的能力を高める指導を受けた幼児と、受けてない幼児では、7歳までは違いが見られるが、その後はあまり差がない」ことも明らかにし、幼児時代に非認知能力を高める意義を強調する。この主張は、弥彦村が子どもたちに付けたい力ともつながる。教育委員会では、今年度から、「保・小・中一貫教育の推進」を掲げている。学校はもちろんのこと、家庭や地域、そして行政が一体となった取組を進めていきたい。

#### ◇認知能力◇



テストなどで測れる力

#### ◇非認知能力◇



テストで測れない力

(文責 教育長)

## 思いやりの心を育む！

教育委員会では、本物や一流のものに触れさせることで、子どもたちに心を揺り動かすような感動を与え、生き生きとした夢や希望を育むことを目的に、平成14年度から心の教育推進事業を行っています。6月14日（木）は保育園の年中児、年長児と小学校1～3年生までと一緒に、演劇「子象物語」を観劇しました。長い時間でしたが、子どもたちは集中して観劇することができました。



## ふるさとを大事にする心を育む！

小・中学校では、総合的な学習の時間に「ふるさと学習」を行っています。学習を通じて、弥彦村が好きになり、ふるさとをもっとよくしたいと考える子どもの育成を目指しています。

また、地域の方々との「かかわり」を通して、子どもたちは、あいさつや返事、言葉遣いなどの人とのかかわり方を身に付けていきます。

中学校は燈籠まつりに向けて、木遣りや太鼓の練習が連日続いています。先日、小学校では3、4年生が、上泉の水吉さんから、相撲を教えていただきました。さらに、4年生は、清香会の皆さんから指導をいただき、11月の菊まつりに向けて、菊の鉢植え作業が行われました。



## 地域で活躍する子ども！



（6月17日 防災訓練）



（6月24日 村民体育祭）

## 学び合って力を高める！

6月13日（水）に弥彦小学校で中越教育事務所の学校訪問が行われました。3年3組菊地教諭の算数の授業が公開されました。中学校の職員も参加し、授業力向上に向けて小・中学校で協議を深めました。



## いじめを見逃さない！

7月5日（木）に弥彦中学校区サポート会議が開催されました。いじめについては、村全体の問題と受け止め、学校・地域・家庭とが連携した対策を推進することが必要です。この会議は、民生児童委員、保護司、学校の教職員等で構成されています。年2回開催されます。1回目は小学校を会場に「いじめ見逃しゼロに向けて地域で何ができるか」をテーマに協議を行いました。とても活発な意見交換がなされました。ありがとうございました。



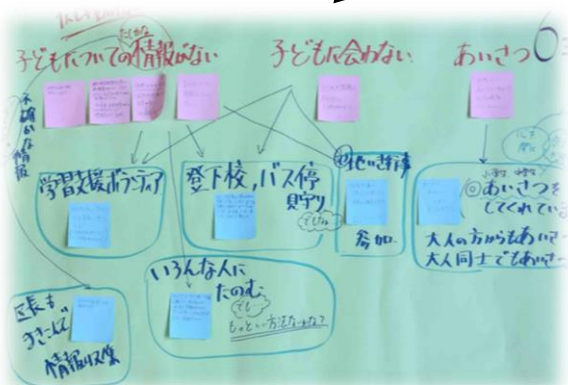
【話合いの様子】

Aさん：なかなか普段地域で、子どもを見ることがないんですね。

Bさん：登下校、バス停の見守りを担当者だけではなくて、地域の人みんなで分担して行うなどできるといいかもしれないですね。

Cさん：学校を卒業させてしまうと、子どもと接する機会が減ってしまうんですね。

Dさん：学習支援ボランティアみたいな取組をしている学校もあるようです。自分の子どもが卒業しても学校とのかかわりを切らさずに、子どもの様子を知ることが大事かもしれないですね。



Eさん：子どもが地域であいさつしないっていう人もいるけど、あいさつすれば返してくれる子が多いですよ。

Fさん：大人同士でもあいさつを交わしたり、大人から子どもにあいさつをしたりしないといけないですね。



## 土曜学習はじまる！

7月7日（土）から土曜学習「弥彦PLAN・DO塾」が始まりました。8月25日（土）までの全6回になります。

今年は、小学校5年生から中学校2年生まで合わせて**43名**の参加申込みがありました。講師は教員OBの方々を中心に、**16名**もの多くの方から協力していただいています。

7日の開講式では、小学生を代表して、6年生の**志太琥珀さん**と**野島実花さん**、中学生を代表して**山宮蓮さん**が決意を述べてくれました。

開講式後。早速授業を開始しました。右のように、講師の皆さんも、一人一人に丁寧に指導をしてくださっています。全6回、参加した子どもたちにとって有意義な時間になるように精一杯取り組みます。



## 海外で働くということ！

7月14日の土曜学習2回目は、青年海外協力隊を経験した長岡市在住の小林由衣さんを講師にお招きして、海外で働くことなどについてお話していただきました。会場には、ウズベキスタンの楽器や衣装などもお持ちいただきました。子どもたちは普段見ることのできない衣装や楽器に興味津々でした。



## 子どもを守る！

このたび、弥彦村防犯組合から小学校全児童に向けて、緊急時の防犯対策として、防犯ブザーの寄贈がありました。

7月19日には、防犯組合会長の小林豊彦村長から、弥彦小学校の大石校長に贈呈式が行われました。夏休みに入って子どもたちだけで行動する機会も増えると思います。ブザーが使われないことが一番ですが、万が一に備えて、携帯して行動しましょう。

